

2022年8月30日

日本のmRNA 医薬品創薬市場の活性化に向けてファンドを設立 ～mRNA を活用した創薬スタートアップの研究開発支援を強化～

株式会社リコー(社長執行役員:山下 良則)は、日本の mRNA 医薬品の創薬市場の活性化に向けて、「リコー バイオメディカル スタートアップ ファンド」を9月に設立し、創薬事業を行う日本国内のスタートアップ企業の研究開発を支援します。

リコーは、mRNA 医薬品の CDMO(医薬品受託製造)事業を行うエリクサジェン・サイエンティフィック(CEO:瀬尾 学、米国メリーランド州ボルチモア、以下 eSci 社)の子会社化を7月末に完了し、同社の事業を生産工程の自動化技術や生産管理ノウハウで支援することで、mRNA を用いた創薬事業の規模拡大を図っています。この eSci 社子会社化によるmRNA を用いた創薬体制の整備につづき、当ファンドの設立により創薬スタートアップ企業の支援を通じた国内創薬基盤の構築を進めます。

背景

mRNA を用いた創薬は、新型コロナウイルス感染症のワクチン開発で注目を集めたように、特定の遺伝子情報の一部をコピーするなどにより、短時間で効果のある配列の設計が可能です。従来の医薬品と比較して大幅に研究開発期間を短縮することができるため、ワクチンやがん治療薬としての活用が期待されています。

また、現時点では創薬ステージの早い段階のスタートアップ企業への資金供給が十分ではないという課題があります。日本国内におけるmRNA を用いた創薬拠点が少なく、経済安全保障の観点からも日本国内における創薬基盤の構築が急務となっています。

ファンドの概要

今回リコーが設立する「リコー バイオメディカル スタートアップ ファンド」は、株式会社ベンチャーラボ インベストメント(代表取締役:山中 唯義)を GP(General Partner)*とし、日本国内の有望なスタートアップ企業に対して投資を行います。スタートアップの発掘・育成を行うとともに、これまで自社および eSci 社で培ってきた強みだけでなく、スタートアップの持つ技術やノウハウを組み合わせることで、日本国内におけるmRNA を用いた創薬基盤の整備・構築を加速し、人々の健康と安心への貢献を目指します。

* GP(General Partner) 無限責任組合員のことで、ファンドの運営に責任を負う組合員のこと。

今後の展開

本ファンドの活動を通じ、mRNA を用いた創薬に関する知見や技術を深めながら、日本国内における市場の拡大に貢献し、基礎研究や前臨床にとどまらず、mRNA を用いた創薬支援におけるプラットフォームを目指します。

■関連ニュース

・リコー、mRNA を活用した創薬支援事業を強化

https://jp.ricoh.com/release/2022/0517_1/

・神経の薬剤応答が測定可能なヒト神経薬効・毒性評価プレートを提供開始

https://jp.ricoh.com/release/2020/1203_1

・iPS 細胞を活用したバイオメディカルの共同事業を北米中心に開始

https://jp.ricoh.com/release/2019/0619_1

■お問い合わせ先

株式会社リコー www.ricoh.com

報道関係のお問い合わせ先: 広報室 050-3814-2806 koho@ricoh.co.jp

お客様のお問い合わせ先: リコーフューチャーズビジネスユニット バイオメディカル事業センター
healthcare_ipsc@jp.ricoh.com

| リコーグループについて |

リコーグループは、お客様のデジタル変革を支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約200の国と地域で提供しています(2022年3月期グループ連結売上高1兆7,585億円)。

imagine. change. 創業以来85年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、[ワークプレイスの変革](#)を通じて、人々の生活の質の向上、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>